

2022年5月29日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**

第65巻第7号(通算3289号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう

週報

教会標語

神様がすべての人と共に
おられることを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

主任担任教師・牛田 匡 牧師
担任教師・水谷 憲 牧師
隠退教師・小林 達夫 牧師

イエスは言われた。「私が復活であり、命である。

私に信頼して歩む人は、たとえ死んでいても生きる」(ヨハネによる福音書11:25)

復活節 第7主日礼拝 (アジア・エキュメニカル週間)

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をしていただけます》

前奏 (黙 禱) AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

招きの詞 詩編 97編 1節

賛美歌 21-410番「昇れよ、義の太陽」(©教団讚美歌改訂委員会)

聖書 ヨハネによる福音書 17章 20-26節

お祈り
賛美歌 21-11番「感謝にみちて」(©JASRAC)

メッセージ 「人となり 他人と異なり 一つとなる」 岡嶋 千宙 伝道師

賛美歌 21-540番「主イエスにより」(©著作権消滅)

主の祈り 21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

誕生者祝福式 (*) 岡嶋 千宙 伝道師

献げ物 (**)

派遣 21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ) (©JASRAC)

祝福 岡嶋 千宙 伝道師

後奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©著作権消滅)

報告 (4頁をご参照ください)

《お隣と間隔をあけて、席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

* みんなで5月生まれの方(と今年度5月までにお生まれの方)を祝福いたします。
ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

** 「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

¹主は王となられた。
地は喜び躍れ。
多くの島々は喜べ。

聖書 ヨハネによる福音書 17 章 20-26 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

²⁰また、彼らについてだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々についても、お願いします。²¹父よ、あなたが私の内におられ、私があなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らも私たちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになったことを信じるようになります。²²あなたがくださった栄光を、私は彼らに与えました。私たちが一つであるように、彼らも一つになるためです。²³私が彼らの内におり、あなたが私の内におられるのは、彼らが完全に一つになるためです。こうして、あなたが私をお遣わしになったこと、また、私を愛されたように、彼らをも愛されたことを、世が知るようになります。²⁴父よ、私に与えてくださった人々を、私のいる所に、共にいるようにしてください。天地創造の前から私を愛して、与えてくださった私の栄光を、彼らに見させてください。²⁵正しい父よ、世はあなたを知りませんが、私はあなたを知っており、この人々はあなたが私をお遣わしになったことを知っています。²⁶私は彼らに御名^{みな}を知らせました。また、これからも知らせます。私を愛してくださったあなたの愛が彼らの内にあり、私も彼らの内になるようになるためです。



《先週のメッセージより》2022年5月22日 復活節第6主日礼拝

「苦しみが喜びに変わる日を待ち望む」

牛田匡牧師

聖書 ヨハネによる福音書 16章12-24節

「苦しみが喜びに変わる」なんて、あり得るのでしょうか。「そんなことはあり得ない」と言われそうです。聖書の中で、しばしば「嘆きが踊りに変えられ」（詩30:12）、「苦しみが喜びに変えられる」（ヨハネ16:20）と述べられているのは、裏を返せば、古代イスラエル民族がかつて奴隷であり、土地を持たない放浪の民であり、小さく弱く貧しい民族であったが故に、常に苦勞のない時はなかったということでした。だからこそ、そのような神様の約束の言葉が必要でした。そしてイエス様と出会った後も、直接イエス様と接した弟子たちだけでなく、イエス様の復活の後の初代教会の人たちも皆、ずっと迫害などの苦勞の中にありました。にもかかわらず、彼らは諦めることなく、絶望して自暴自棄になることもなく、「苦しみが、喜びに変わる日が来る」と信じて、歩んでいました。それこそが、イエス・キリストが「十字架にて殺されから、3日目に死から引き起こされて、今も生きて全ての人と共におられる」ということなのではないかと思えます。

「今の苦しみは、やがて喜びに変わる」という言葉だけを取り上げると、ともすると現在のハラスメントを容認する言葉のように、受け取られてしまいかねません。音楽でもスポーツでも、仕事の上でも、「苦しい我慢や、忍耐の末にこそ、成功がある」「この成果を出せたのは、あの厳しい指導のおかげ」と思われて来たのではないかと思えますが、その結果は自分が受けてきたハラスメントを、次の世代にも押し付ける「ハラスメントの連鎖」と、たましいが破壊されて生きる意欲を失い、絶望し自暴自棄に走る人々の姿なのではないでしょうか。苦しみ自体に意味があるのではありません。また「それ自体を求めなさい」と言われているのでもありません。むしろ求めていなくても日々に周りにあふれている様々な苦しみを前にする私たちに、神様は「私はいつも一緒にいる。あなたは一人じゃないから大丈夫」と語りかけてくれているのではないのでしょうか。苦勞の意味は「〇〇のためだ」と他人から与えられるものではないはずです。何故、今こんな苦しみが与えられているのか、たとえすぐには分からなくても、時には数年後、数十年後であったとしても、「あの時の苦勞は、このためだったんだ」と自らの内に気付くことがある、意味づけすることができる時が来る。それが真理の霊（聖霊）によって導かれた「苦しみが喜びに変わる日」なのではないかと思えます。苦しみが喜びに変えられる日が必ず与えられることを待ち望みつつ、私たちは今日も、共にいてくださる神様に導かれながら、歩みを進めていきます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



LINE 公式アカウント



